

熊本地震の被害状況

山下 裕 昭 (熊本県農業研究センター畜産研究所)

All about SWINE 49, 39-41

1 熊本地震の発生状況

平成 28 年 4 月 14 日午後 9 時 26 分、熊本県益城町で震度 7、熊本市などで震度 6 弱を観測した強い揺れが襲った。多くの家屋が倒壊し、死傷者も 1,000 人を超えた。ライフライン、交通インフラはずたずたになり、電気、水道、ガスの供給もストップした。九州新幹線は脱線し、九州自動車道も陥没や隆起のため通行止めとなった。14 日、15 日の 2 日間で震度 6 強と震度 6 弱が各 1 回、5 弱も 2 回あり、震度 1 以上は 152 回観測されていた。それでも、余震はあるが次第に落ち着くと多くの県民が思っていたことだろう。しかし、恐怖の揺れが再び熊本県を襲った。4 月 16 日午前 1 時 25 分マグニチュード 7.3、震度 7 のいわゆる本震が発生した。14 日前震のマグニチュード 6.5 の 16 倍もエネルギーが大きいと言われており、平成 7 年の阪神大震災と同じ規模である。本震の後、震度 6 強 1 回、6 弱 2 回、5 強 1 回が短時間のうちに断続的に発生し、7 月末までに震度 1 以上の揺れが 1,900 回以上観測された。

本震では、国道 3 号線、九州自動車道の通行止め、阿蘇大橋の崩落など交通機関やライフラインは再び大きな被害を受け、広範囲で電気、水道、ガスの供給停止となった。住宅の被害は一部損壊も含めると 16 万棟を超え、発生直後は避難者も 18 万人 (県人口の約 1 割) を超え、まだ現在

も 3,000 人弱が避難生活を送っている。熊本地震による人的被害は、震災関連死を含めると死者は 81 人、行方不明者 1 人、重軽傷者 1,961 人と甚大なものとなった。(いずれも 7 月末時点の公表)

震災発生から約 3 ヶ月が経過し、大きな揺れは少なくなったが、地鳴りとともに体に感じる揺れが発生すると、未だに本震の記憶がよみがえり、この揺れが長く続くのではないかと考えてしまい、鼓動が激しくなる。

2 農林水産関係被害状況

農林水産関係の被害額は 1,486 億円であった。特に田畑の法面崩壊、亀裂、液状化やため池、用排水路、農道等の農業用施設の被害が深刻で、被害箇所 16,000 箇所、被害金額は 700 億円を超えている。農産物の被害は、揺れによるすいか、メロンの落果等の被害だけでなく、イチゴ、なす、トマト等の選果場が稼働できず廃棄が行われたため、被害額は 2 億円を超えた。農業施設の被害は、畜舎、農舎の損壊、農業機械、飼料タンクの破損、野菜等のハウスの破損等により被害額は 333 億円に上った。畜産物では、家畜の死亡・廃用 (乳用牛 150 頭、肉用牛 600 頭、豚 550 頭、馬 10 頭、鶏 540,000 羽)、生乳廃棄、土砂流入によりイタリアンライグラスの収穫不能などの被害が発生し、被害額は 9 億円を超えている。この地震

で大きな被害を受け、休業している農家や廃業を決めた農家もあり、被害は深刻である。

養豚関係の被害では、豚舎の全半壊、豚舎天井の落下、飼料タンク及び給餌ラインの破損、スクレーパーピット内の破損、分娩・育成ケージの滑落、コンポストの破損、水道施設の破損、豚舎内のコンクリートの隆起などの被害が発生した（熊本県及び熊本県養豚協会調査）。特に、飼料タンクの倒壊や給餌ラインの破損の被害が多く、人力で飼料給与を行った農家も少なくなかった。畜産研究所においては、幸いにして畜舎倒壊等の被害はなかったが、養豚の自動給餌ラインが破損し、飼料を手作業で給与した。

県では、被災農業者向け営農再建支援相談窓口を設置し、農業分野での震災後の営農再建に向けた総合的な相談への対応や国・県の支援策の紹介等を行うとともに、被災農業者向け経営体育成支援事業、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業など様々な事業の推進を行い、被災農家の救済を進めている。

3 熊本地震からの復旧・復興

国道 57 号線の復旧ルートや崩落した阿蘇大橋の架け替えが決定し、奇跡の一本石垣と言われている熊本城飯田丸五階櫓も倒壊防止工事が開始されるなど少しずつではあるが復旧・復興が始まっている。

熊本県では、熊本地震からの復旧・復興に向けて「平成 28 年熊本地震からの復旧・復興プラン」が策定された。このプランは、「被災者の痛みの最小化」、「創造的な復興」、「復旧・復興を熊本のさらなる発展につなげる」という「復旧・復興の三原則」を踏まえ、熊本地震からの創造的復興に向けて、「県民の総力を結集し、将来世代にわたる県民総幸福量を最大化する」取り組みが始まったところである。

最後に、発生直後から県内外の多くの皆様より、支援物資の調達、ボランティア活動への参加、寄付金・義援金をお寄せいただくなど、多大なるご支援・ご声援をいただきました。深く感謝いたします。

熊本地震による農林水産関係被害の推計第 4 報（平成 28 年 6 月 21 日熊本県公表）

| 部 門 | 概 要 | 被害金額 | |
|-------|--|---|----------------|
| 畜産物 | 家畜（鶏、肉用牛、乳用牛、豚、馬）の死亡・廃用：541,310 頭、生乳等の廃棄、イタリアンライグラスの収穫不能 | 9 億 8,068 万円 | |
| 農作物 | いちご、なす、トマト等選果機の不具合等による廃棄等、すいか、メロンの落果 | 2 億 5,947 万円 | |
| 農業関係 | 農業施設 | 畜舎・農舎の損傷、農業用機械・飼料タンク破損、野菜、花きハウス等の破損 | 333 億 9,082 万円 |
| | 農地など | 田畑の法面崩壊、亀裂、クラック、液状化等、ため池の堤体損傷、用排水路等の損傷、農道・牧道等の法面崩壊等 | 701 億 4,670 万円 |
| 小 計 | | 1,047 億 7,767 万円 | |
| 林業関係 | 法面崩壊、路肩決壊、山腹崩壊等 | 405 億 6,038 万円 | |
| 水産業関係 | 堤防のクラック、防波堤、護岸等の破損等 | 33 億 2,174 万円 | |
| 合 計 | | 1,486 億 5,979 万円 | |



出典：熊本城フェイスブック

奇跡の一本石垣と言われている熊本城飯田丸五階櫓。二度の揺れにもなんとか石垣が持ちこたえている。(左の写真)
鉄骨3本を櫓の土台に差し込み、櫓を支え一本石垣の倒壊を防ぐ応急工事が行われた。(右の写真)

参考資料

- (1) 平成28年熊本地震第37回政府現地対策本部会議・第41熊本県災害対策本部会議資料，平成28年6月21日
- (2) 平成28年度熊本地震からの復旧・復興プラン，平成28年8月，熊本県